

JAグループ広島 営農通信

2020年

春号



ほうれんそう収穫機の実演
(担い手アグリサミットにて)

提供ラジオ番組のご紹介

～全国FM38局で放送中～

**TODAY'S
AGRI NEWS**
毎朝農産
ニュースを
お届け！
EVERY Mon-Fri AM 6:30-6:35

<https://www.tfm.co.jp/agrinews/>

- 放送日：毎週月曜～金曜日 6:30～6:35
- パーソナリティ：月～木 鈴村健一さん
金 山崎樹範さん

**ZEN-NOH
COUNTDOWN JAPAN**

<https://www.tfm.co.jp/cdj/>

- 放送日：毎週土曜日 13:00～13:55生放送
- パーソナリティ：ジョージ・ウィリアムズさん
安田レイさん

ニッポンの未来を元気にする
「農業応援プログラム」
あぐりずむ



<https://www.tfm.co.jp/weekend/>

- 放送日：毎週土曜日 9:30～9:50
- パーソナリティ：川瀬良子さん

JA全農ひろしま

JA全農ひろしまホームページ



<https://www.jazhr.jp>

◆ 米穀情報

- ① 耕畜連携資源循環米「せらにしあきさかり」を販売開始
- ② 業務用実需者との複数年契約栽培の取り組みについて(“固定価格”&“多収実現”)

◆ 園芸情報

- ① こまつな県外出荷に向けた取り組みについて
- ② 夏秋トマト栽培研修会の開催について
- ③ 広島県馬鈴しょ協会生産者大会について
- ④ 青果物の販売経過および情勢

◆ 肥料・農薬情報

- ① 《水稻》春を迎えた今からできる対策について(深刻な暖冬・雪不足編)
- ② 畦畔管理の労力・コスト削減について

◆ 農機情報

- ① JAグループ共同購入トラクタの取り組みについて
- ② 「春の農作業安全確認運動」の実施について
- ③ ローター等を装着したトラクタの公道走行について

米穀情報

① 耕畜連携資源循環米「せらにしあきさかり」を販売開始

- JA全農ひろしまでは、「SDGs」(持続可能な開発目標)の一環として、耕畜連携資源循環ブランド「3-R(さん・あーる)」商品である「せらにしあきさかり」の販売を開始しました。
- 世羅西地区の生産者グループ「おぐにフィールド」にて生産しており、同商品の令和元年度産の作付面積は7haで、42トンを出荷しています。
- 世羅地区で製造された鶏ふんを10aあたり400kg以上施用し、「耕畜連携」による地域資源の有効活用や循環を図っていること、また節減対象農薬と化学肥料(窒素成分)の使用回数を通常の2割以上削減して栽培した環境保全米です。
- 販売に先立ち、生産報告会を1月30日(木)、世羅町役場(世羅郡世羅町)で行い、奥田正和世羅町長や生産者、JA関係者らが参加し、当商品の試食を実施しました。
- 同商品は2月4日(火)から、全農ひろしま直営の直売所「とれたて元気市 広島店・となりの農家店」(広島市・東広島市)のほか、JA尾道市の産直市「ええじゃん尾道」(尾道市)で販売しています。

【生産報告会の様子】



生産報告会に出席した生産者と世羅町長(一列目左から2人目)、JA尾道市村上常務(二列目右端)、全農ひろしま水永県本部長(一列目右端)



「耕畜連携資源循環ブランド3-R(さん・あーる)」の新商品「せらにしあきさかり」



生産報告会では、試食も行いました。

■ JA全農ひろしまホームページ <https://www.jazhr.jp/>

※トップページから、「広島の農畜産物」⇒「広島のお米」とお進みください。

JA全農ひろしまは、今後も広島県内のお米や産地の魅力を発信していきます。

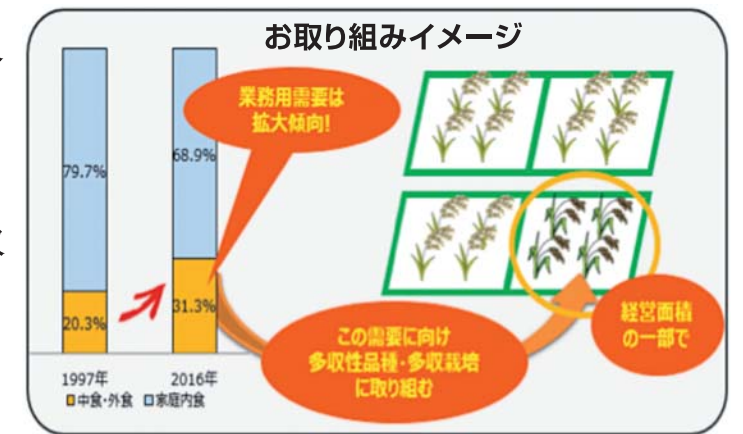
〈お問合せ先〉米穀販売課／山口:TEL.082-431-3000

② 業務用実需者との複数年契約栽培の取り組みについて (“固定価格”&“多収実現”)

JAグループ広島では、生産者の皆さまの安定した営農の実現に向けて、安定取引が見込める業務用実需者との契約栽培を進めています。

【本取り組みの概要】

- 「安定販売先」を事前に確保し「固定価格で複数年契約(出荷確約契約)」する取り組みです。
- 複数年固定価格契約であるため、販売収入が相場に左右されません。また、価格が決まっているため、作付け計画の段階で収入の予測が立てられます。
- 近年の主食用米相場からすると、現在の1袋当たりの契約価格は安価ですが、多収により面積当たりの収量向上を目指すことで、中長期的に安定した収入確保を実現できます。
- 多収を実現するための栽培技術指導や品種提案等について、JAグループ広島をはじめ関係機関の協力のもと実施します。
- JAに出荷いただいた玄米は、JA全農ひろしまパールライス工場(精米HACCP認定取得)で精米・袋詰めを行います。納品・販売先は全国大手の業務用実需者が運営する、広島県内を中心とした店舗となります。(例:すき家、はま寿司、ココス他)



なお、現在の複数年契約栽培は令和2年産米までの契約期間となっていますが、令和3年産米からは業務用実需者の旺盛な安定調達ニーズに対し、新たな複数年契約栽培の取り組みを進める予定です。

令和2年度は、契約対象品種の拡大を目的とした試験栽培を複数品種・産地で実施し、令和3年産米からの新たな複数年契約条件を確定(11月目途)させて、生産者の皆さまへのご案内を進めてまいります。

複数年契約栽培拡大イメージ



〈お問合せ先〉米穀総合課／塚本:TEL.082-431-5450

園芸情報

① こまつな県外出荷に向けた取り組み

JA全農ひろしまでは、広島市と安芸太田町を中心に作付が拡大している「こまつな」を、広島県東部・県外（関西）市場に販路を拡大するための取り組みを開始しました。この取り組みは、契約的販売を基本として、生産者の経営の安定化を目的としています。

これまで物流・集荷、資材・荷姿などは産地により異なり、出荷のほとんどが広島市中央卸売市場（中央・東部）でしたが、広島市以外にも出荷できるよう、協議・検討を重ね、集荷拠点を整理。「こまつな」専用の出荷袋や段ボールによる出荷に統一します。なお、先行して2月2日から既存袋での出荷を開始しています。

1月中旬には「目合わせ会」を実施。全農ひろしまの職員のほか、生産者や広島市、広島県、JAなど約25名の方にご参加いただきました。「目合わせ会」では、出荷予定の生産者が自身の栽培した「こまつな」を持ち寄り、荷姿や規格などについて熱心に意見を交わしました。

福田農園（広島市白木町）の代表で、JA YOUTH広島市の委員長を務める福田卓己さん（50）は「このような取り組みを提案してもらえることは、年間を通して販売価格を維持できるので非常に助かる。今後も販路を拡大して、色々な地域の方に広島の「こまつな」を食べてもらえる機会が増えることは嬉しい」と話してくださいました。

【目合わせ会の様子】



規格等の説明をする様子



出荷用の統一資材である段ボール



●「こまつな」専用の出荷袋デザイン

② 夏秋トマト栽培研修会の開催について

2月14日、広島県立総合技術研究所農業技術センターにて、「夏秋トマトの環境制御技術研修会」を開催し県内の夏秋トマト生産者やミニトマト生産者、県、JAなど57名が参加しました。

岩手県では、数年前から夏秋トマトの環境制御技術による多収栽培の研究と普及に取り組んでおり、今回、岩手県農業研究センターから取り組み事例を報告していただくとともに、広島県の取り組みについて関係者で情報共有を行いました。

広島県では、今年度から夏秋トマト産地の生産性向上を目的に、環境制御技術の導入推進を始めており、今後関係者で情報共有を図りながら取り組みます。



研修会の様子

③ 広島県馬鈴しょ協会生産者大会について

2月21日、JA芸南本所にて、「令和元年度馬鈴しょ協会生産者大会」を開催しました。1月に実施した「馬鈴しょ品評審査会」ではイモの緑化度合いや皮ずれ、奇形、そうか病の発生、外観品質などをふまえた評価を行い、広島県馬鈴しょ協会会長賞をはじめ、食用馬鈴しょから3点、種子用馬鈴しょから3点を選出しました。本大会では、受賞した6名の生産者に対し、表彰を行いました。

また、県内市場から食用馬鈴しょ情勢を、県内種苗店から種子用馬鈴しょ情勢が報告され、記念講演では、広島県立総合技術研究所農業技術センターから、ばれいしょ害虫の防除対策について、説明していただきました。



表彰式の様子
（中央：JA芸南 山田組合長）

〈お問合せ先〉園芸課／^{かん だ}神田：TEL.082-846-4708

④ 青果物販売経過および情勢

2020年(令和2年)2月の日本の天候は、気温が全国的に高く、沖縄・奄美では記録的な高温となりました。北・東・西日本の日本海側の降雪量はかなり少なく、西日本の日本海側では記録的な少雪となりました。降水量は、北日本と東日本の日本海側で少なく、九州南部と沖縄・奄美で多くなりました。

そのような中、広島県本部の青果物の取扱状況は、令和2年2月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量11,483t(前年比103%)、販売金額3,827百万円(同95%)、単価は333円/kg(同92%)となりました。野菜類は前年累計値と比較して殆どの品目で出荷量は増加していますが、単価は低調で推移している状況です。

■全農広島県本部の販売状況(令和元年4月～令和2年2月末累計) ※全て税抜 ※速報値

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	11,483	103%	3,827,359	95%	333	92%
青ねぎ	1,599	100%	882,374	94%	552	94%
トマト	2,586	99%	769,208	87%	297	88%
アスパラガス	315	104%	348,883	98%	1,106	94%
ほうれんそう	502	119%	255,983	108%	510	91%
小松菜	920	108%	243,313	104%	264	96%
きゅうり	751	108%	193,503	103%	257	96%
わけぎ	312	86%	190,169	89%	608	103%
くわい	110	78%	143,229	84%	1,298	107%
ミニとまと	181	110%	108,868	102%	601	93%
だいこん	1,389	100%	101,074	84%	72	84%
白ねぎ	305	98%	81,812	87%	268	89%
キャベツ	988	114%	59,234	113%	59	98%
その他葉茎菜類	163	168%	58,485	146%	358	87%
青梗菜	173	124%	55,714	134%	321	109%
なす	211	104%	50,011	86%	237	82%
豌豆	52	98%	48,577	83%	928	83%
その他根菜類	126	156%	33,269	125%	263	80%
きぬさや豌豆	19	83%	33,256	77%	1,741	92%
その他	779	97%	170,398	103%	219	106%

※全農広島県本部の主要品目別市場出荷実績

◆2月単月の概況

【数量】

- 品目では、はくさい(467%)、きゅうり(175%)、小松菜(140%)は、前年度の2月単月を上回る出荷数量でした。※()は前年度比。
- 2月は日中の気温が高かったことや適度に降雨もあったため、葉物野菜を中心に出荷量はやや多く推移しました。また、重量野菜においては、通常を中心階級を上回る大きな規格の出荷が増加しました。
- 2月単月の総出荷量は571tとなり、前年比98%と昨年を下回りました。単価は319円/kgで前年比97%と低位となりました。昨年と同様に暖冬の影響を受けているため、例年と比較して出荷量は多く推移しています。そのため、野菜相場の回復は見られない状況となっています。

【金額・単価】

- 2月単月の全体の平均単価は319円/kgとなり、前月の328円/kgよりもやや下がっています。
- 2月単月の出荷量は前年と比較し、14トン減少しました。トマト、だいこん、青ねぎなどが減少したことが要因です。また、単月の販売金額は182百万円(前年比95%)で終了しました。
- きゅうり・ちんげんさい・トマトなどの単価は前年同月比で高くなっています。また、白ねぎ・キャベツ・わけぎの単価は下がっています。

◆3月の見通し

- (1) 入荷量の見通し
3月の主要野菜(15品目)の入荷量は、平年を下回る水準と見込まれる。
「平年を上回る」と見込まれるのは、にんじん、白ねぎの2品目。
「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、青ねぎ、ピーマン、さといも、たまねぎの8品目。
「平年並み」と見込まれるのは、レタス、きゅうり、なす、トマト、ばれいしょの5品目。
- (2) 卸売価格の見通し
3月の主要野菜(15品目)の卸売価格は、平年を下回る水準と見込まれる。
「平年を上回る」と見込まれるのは、ピーマンの1品目。
「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、青ねぎ、白ねぎ、レタス、ばれいしょ、たまねぎの10品目。
「平年並み」と見込まれるのは、きゅうり、なす、トマト、さといもの4品目。

〈お問合せ先〉園芸課／^{かん だ}神田：TEL.082-846-4708

■ 品目別の入荷量、卸売価格の見通しは以下の通りです。

品 目	3 月 の 入 荷 量		3 月 の 卸 売 価 格		(参考) 前年 3 月 の主産県シェア (%)
	平年比較	(参考) 前年比較	平年比較	(参考) 前月比較	
だ い こ ん	▼	=	▼	↗	長崎(62) 福岡(20) 宮崎(7) 鹿児島(5)
に ん じ ん	↗	=	▼	↗	長崎(37) 鹿児島(26) 徳島(23) 熊本(13)
は く さ い	▼	=	▼	↗	長崎(75) 熊本(21)
キャベツ	▼	=	▼	▼	福岡(31) 愛知(22) 山口(11) 熊本(10)
ほうれんそう	▼	=	▼	▼	広島(82) 福岡(15)
青ねぎ	▼	=	▼	▼	広島(61) 愛媛(10) 大分(9) 福岡(5)
白ねぎ	↗	=	▼	▼	鳥取(55) 大分(26) 広島(12)
レタス	=	=	▼	▼	長崎(40) 福岡(29) 香川(24)
きゅうり	=	=	=	▼	宮崎(46) 佐賀(19) 熊本(10) 福岡(10)
なす	=	=	=	▼	福岡(64) 佐賀(22) 熊本(9)
トマト(ミニトマトを除く)	=	=	=	=	熊本(38) 広島(24) 佐賀(13) 宮崎(12)
ピーマン	▼	=	↗	▼	宮崎(43) 鹿児島(25) 高知(13) 輸入(12)
ばれいしょ	=	=	▼	=	北海道(55) 鹿児島(44)
さといも	▼	▼	=	=	愛媛(81) 宮崎(14)
たまねぎ	▼	=	▼	↗	北海道(67) 長崎(20) 佐賀(8)
品 目 計	▼	=	▼	↗	

注:「平年」とは、直近5か年の平均値である。

※この資料の内容は令和2年3月1日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動があり得る。

※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通しのコメント及びグラフは令和2年2月28日中四国農政局園芸特産課の発表内容による。

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

品 目	12月上旬		12月中旬		12月下旬		1月上旬		1月中旬		1月下旬		2月上旬		2月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	372	100%	307	84%	401	101%	166	73%	338	82%	425	100%	323	79%	350	96%
にんじん	235	82%	255	81%	216	76%	115	84%	225	82%	286	105%	216	85%	181	90%
はくさい	446	95%	405	78%	539	96%	282	95%	365	83%	523	115%	386	88%	379	90%
キャベツ	469	89%	439	88%	563	98%	323	93%	568	104%	593	97%	530	92%	498	97%
ほうれんそう	37	84%	31	76%	39	85%	25	88%	42	89%	50	93%	42	77%	48	88%
青ねぎ	33	86%	34	83%	40	78%	25	80%	37	86%	47	104%	38	82%	37	87%
白ねぎ	69	86%	78	86%	92	82%	40	75%	83	97%	92	112%	73	107%	57	98%
レタス	174	95%	171	100%	251	121%	126	105%	129	59%	178	104%	173	103%	146	61%
きゅうり	144	95%	164	118%	156	96%	125	87%	133	97%	189	104%	140	85%	160	95%
なす	35	98%	40	129%	30	86%	38	105%	29	89%	40	106%	37	99%	42	109%
トマト(ミニトマトを除く)	104	125%	95	110%	96	124%	87	118%	88	100%	105	109%	86	94%	87	95%
ミニトマト	57	135%	70	169%	58	126%	35	104%	50	120%	43	114%	36	100%	47	146%
ピーマン	42	107%	30	83%	36	88%	29	94%	35	88%	40	90%	33	85%	32	78%
ばれいしょ	216	81%	273	105%	208	94%	148	91%	223	85%	306	94%	274	95%	369	146%
さといも	10	36%	10	24%	22	46%	3	19%	6	22%	14	45%	8	29%	6	26%
たまねぎ	359	72%	397	81%	267	62%	224	94%	332	76%	495	95%	465	86%	360	83%

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

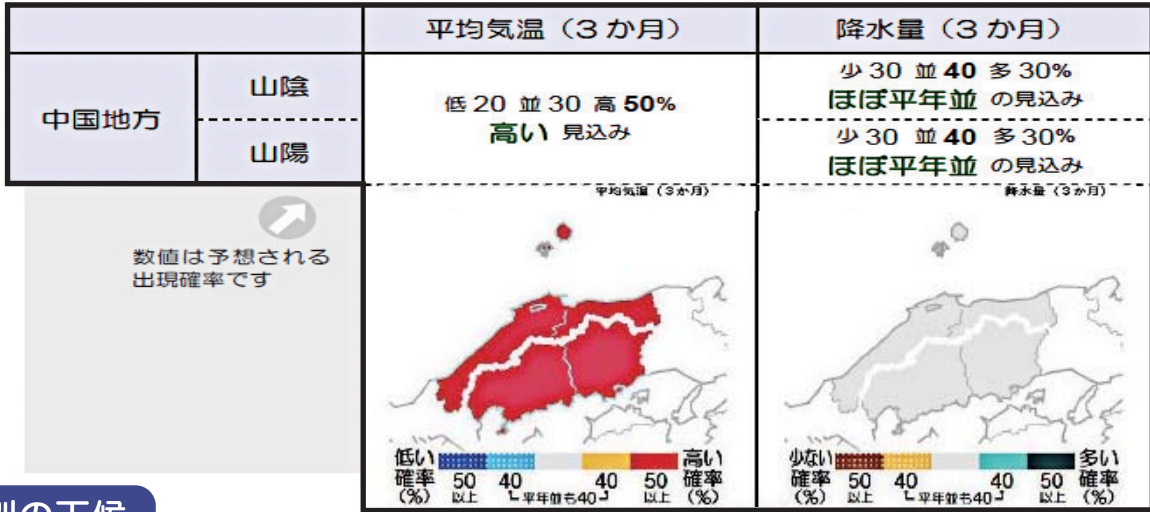
品 目	12月上旬		12月中旬		12月下旬		1月上旬		1月中旬		1月下旬		2月上旬		2月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	58	85%	55	77%	56	67%	60	69%	49	67%	49	67%	45	57%	52	69%
にんじん	119	105%	119	96%	136	96%	118	98%	99	79%	93	79%	89	71%	96	75%
はくさい	59	84%	48	70%	46	61%	65	76%	55	69%	31	41%	45	55%	41	53%
キャベツ	72	87%	70	81%	71	69%	71	59%	57	60%	74	71%	55	49%	58	51%
ほうれんそう	511	90%	585	98%	577	87%	603	89%	509	83%	518	81%	463	77%	464	86%
青ねぎ	560	93%	553	88%	600	84%	683	88%	581	81%	528	78%	541	79%	547	80%
白ねぎ	371	104%	357	100%	352	89%	392	94%	317	89%	253	72%	254	67%	252	67%
レタス	141	82%	154	76%	139	53%	144	50%	187	112%	167	71%	139	59%	156	106%
きゅうり	413	103%	477	101%	614	109%	527	144%	425	109%	376	91%	551	139%	332	99%
なす	460	110%	459	94%	458	96%	408	104%	447	101%	464	103%	500	107%	463	106%
トマト(ミニトマトを除く)	309	87%	276	80%	254	68%	266	79%	269	80%	286	82%	393	102%	377	98%
ミニトマト	601	108%	442	75%	385	56%	420	71%	467	84%	560	86%	711	101%	653	91%
ピーマン	391	96%	460	88%	589	101%	552	99%	634	100%	703	103%	810	109%	823	115%
ばれいしょ	86	71%	75	63%	83	72%	78	66%	91	72%	117	91%	88	64%	76	54%
さといも	224	92%	242	94%	307	107%	280	101%	245	101%	273	105%	206	80%	220	83%
たまねぎ	74	92%	73	86%	82	94%	76	83%	76	83%	143	148%	74	80%	77	76%

資料:「広島市中央卸売市場日報」

注:平年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

3か月の平均気温・降水量

【地域別長期予報(向こう3カ月)】 気象庁HPより



月別の天候

3 月	4 月	5 月
高気圧と低気圧の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わるでしょう。 山陽では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	高気圧と低気圧の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わるでしょう。 平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	高気圧と低気圧の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わるでしょう。 平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

〈お問合せ先〉園芸課／^{かん}神田:TEL.082-846-4708

肥料・農薬情報

① 《水稻》春を迎えた今からできる対策について(深刻な暖冬・雪不足編)

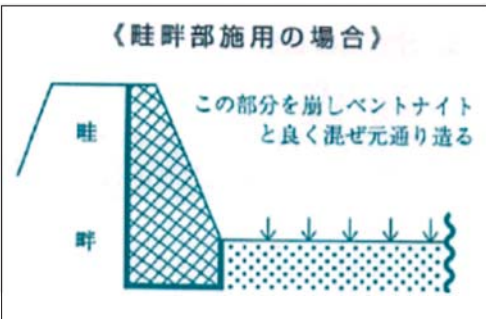
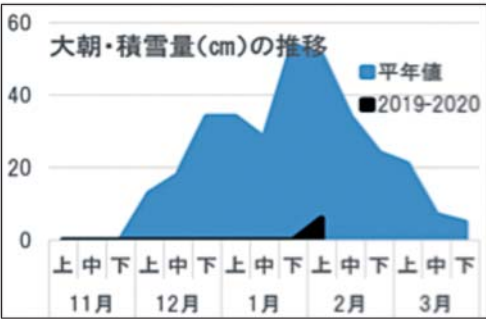
全国各地で記録的な高温となり、雪不足に見舞われています。広島県大朝地区でも、平均気温は、冬季を通じて平年に比べかなり高く、降水量は平年並みですが、積雪量が大変少ないために今後の水不足が懸念されます。

春からの水稻の作業や生育に大きく影響を及ぼし、代掻き田植え作業の遅れ、移植後の水不足が想定されます。節水を意識した計画的な水利用に努めましょう。水不足を前提とした今後の対策について紹介します。

●畦畔の補修や漏水防止対策の実施

水稻の活着及び初期生育の促進、除草剤の効果発現の面から漏水防止は重要です。

特に、漏水しやすい畦には畦塗り、畦波シートの設置等を行いましょ。 「ベントナイト」の施用も有効です。



●春でも間に合う土づくりの実施

水不足の場合、**移植後はなかなか落水しにくく、常時湛水している圃場が多く見受けられます。**その場合、土壌の還元化が急激に進み、根の生育に有害なガスが発生しやすくなります。それにより、根腐れや分げつが抑制され、下葉に茶色の斑点が見られるようになります(赤枯れ症状)。

有害ガスによる初期生育停滞を軽減する土づくりのポイントは以下の通りです。

①含鉄資材により有害ガスを無害化

②わら分解促進剤により異常還元の軽減

①含鉄資材	②わら分解酵素資材	②有用微生物資材
ミネラルG・ミネテツエース	アグリ革命細粒・アクア	豊土サングリーン元肥用
水稻の収量向上に必要不可欠な けい酸と鉄をバランスよく含有	酵素資材のため土壌環境の 影響を受けず、速効性!	光合成細菌、繊維素分解菌等が わらを分解させ、有害ガスを分解
200kg/10a	細粒2kg・アクア100ml/10a	5kg/10a
移植2週間前まで	3月下旬まで	代かき時まで

※移植後のガスわき対策には、豊土サングリーン追肥用(光合成細菌主体)が有効です。ガスわきが見られたら、すぐ散布しましょう。湛水状態で5kg/10a散布です。

② 畦畔管理の労力・コスト削減について

中山間地域が多い広島県での営農において、大きな労力となるのが畦畔の雑草対策です。抑草剤と除草剤を上手く組み合わせて使用することにより、草刈機での除草作業と比べて労力が削減できます。

○除草剤を活用したおすすめの畦畔管理方法

3月以降に抑草剤(草が生えにくくする効果や草が伸びにくくする効果)と除草剤(生えている草を枯らす効果)を組み合わせて畦畔管理を行います。

① 3月～4月(雑草発生前・雑草発生初期)の管理

抑草剤を使用して今から生える雑草、もしくは生え始めの雑草を抑制します。

雑草発生前に「カソロン粒剤6.7」を散布するか、もしくは草丈が10cm程度の時に「グラスショート液剤」を散布します。畦畔が急傾斜の場合、粒剤の散布が困難なためグラスショート液剤がおすすめです。

② 6月～7月(雑草生育期)の管理

雑草の草丈が15cmくらいまで伸びたら、今ある雑草を枯らす効果のある「バスタ液剤」と今から生えてくる雑草を抑える「ダイロンズル」を混用して散布します。



●使用する農薬

農薬名	10aあたり使用薬量	特 徴
カソロン粒剤6.7	6kg	土壌表面に処理層を作ること、これから生えてくる雑草を抑える。 (草が生えにくい) 散布時期: 雑草発生前～雑草発生初期 散布方法: 土壌表面
グラスショート液剤	500ml(200倍)	茎葉処理で、イネ科雑草に抑草効果(草が伸びにくい) 広葉雑草は枯らすまたは抑草効果 散布時期: 雑草発生初期 散布方法: 雑草茎葉
ダイロンズル	250ml(400倍)	土壌表面に処理層を作ること、これから生えてくる雑草を抑える。 (草が生えにくい) ※少し大きくなった雑草にも効く
バスタ液剤	1L(100倍)	薬剤がかかった部分のみを枯らすので、根まで枯らさない。 (畦畔が崩れにくい)

ダイロンズルとバスタ液剤は混用散布がおすすめです。

混用する場合は、散布時期: 雑草発生初期 散布方法: 雑草茎葉および土壌表面

〈お問合せ先〉肥料農薬課／豊田: TEL.082-846-4705

農業機械情報

① JAグループ共同購入トラクタの取り組みについて

○JAグループ第一弾共同購入トラクタ生産終了に向けて

JAグループ第一弾共同購入トラクタ(60馬力)は平成28年7月から発売を開始し、令和2年2月5日までに1,658台の受注実績をいただいています。

当初の計画どおり、発売3年目の令和2年6月末の注文分(11月納品)で生産を終了しますので、ご興味のある方は早めにお近くのJA農機センターまでご連絡ください。

○第二弾共同購入トラクタの取り組みについて

第二弾共同購入トラクタは、28～35馬力で計画していますが、現在「事前購入申込書」を取りまとめています。

このとりまとめ結果をメーカーに提出することで、生産資材コストの引き下げに反映させていきます。

取扱メーカー、価格等は令和2年7月に決定する予定です。



第1弾共同購入トラクタ



第2弾共同購入トラクタ

② 「春の農作業安全確認運動」の実施について

毎年全国で300件以上発生している農作業死亡事故を減少させるために、農林水産省は3月から5月までを農作業安全対策の重点期間として、「令和2年 春の農作業安全確認運動」を実施します。

農作業事故は春秋の農繁期に多く発生しています。慣れた場所での作業中に起こりやすいので、いつもの作業でも安全には十分に配慮してください。

③ ロータリー等を装着したトラクタの公道走行について

ロータリー等の直装型作業機*を装着した状態で、一定の条件を満たした場合に公道走行が可能となりました。周囲への安全を第一に注意して走行してください。

ロータリー等の直装型作業機を装着したトラクタの公道走行のために必要な対応にはチェックポイントがあります。詳細については次頁以降のチラシをご参照ください。

※直装型作業機…けん引タイプではないロータリー、ハロー、直装式ブームスプレーヤ、播種機等のトラクタに直接装着する作業機

ロータリー等をつけたまま 公道走行が可能となりました!!

直接装着するタイプの作業機（ロータリ、ハローなど）は トラクタに装着したまま公道走行できるようになりました。

この程、国土交通省が農耕トラクタに関わる道路運送車両法の運用を見直し、保安基準に緩和措置が盛り込まれることとなりました。保安基準緩和の認定条件に基づく制限事項*に対応することで、農耕トラクタに作業機を装着しても道路が走行できるようになりました。必要な対応を行うと共に、周囲の安全を第一に注意して走行してください。

※制限事項:灯火装置類、作業機を装着しての寸法、最高速度、必要な免許などの確認が必要となります。詳しくはお近くのJA農機センターへご相談ください。

～制限事項について一部をご紹介します～

1 トラクタに装着して公道走行できる作業機について

今回の見直しは、トラクタに直接装着し持ち上げて走行するタイプの作業機(以下、直装タイプの作業機)が対象になります。

※トラクタにけん引される被けん引型の作業機については、引き続き運用の見直しを検討中です。

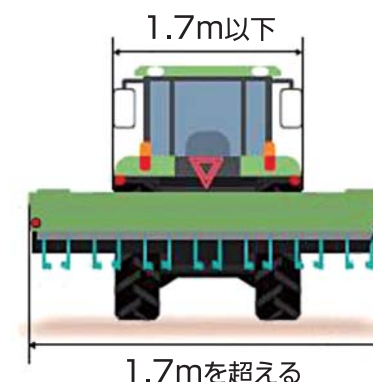


2 必要な運転免許証について

トラクタで道路を運転するためには、以下の運転免許証を取得している必要があります。

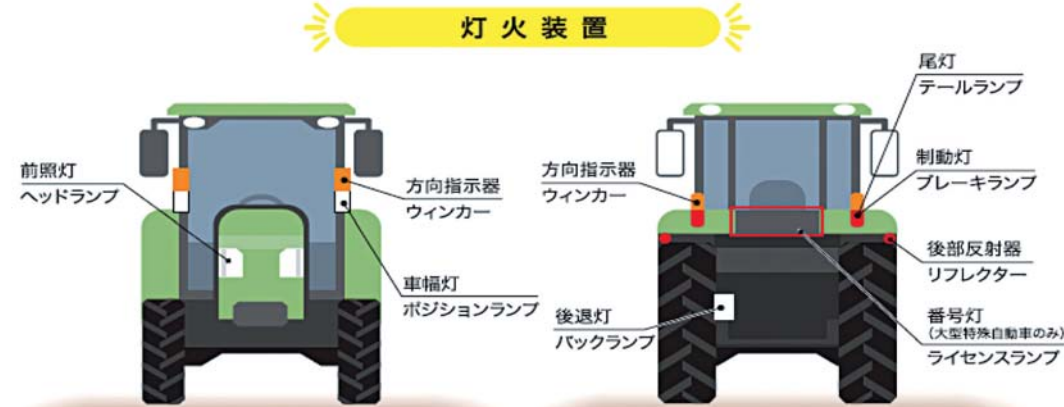
制 限	必要な運転免許証
トラクタに作業機を装着した状態の寸法が全幅1.7m以下、全高2.0m以下(安全キャブや安全フレームの高さ2.8m以下)、全長4.7m以下、且つ、最高速度が15km/h以下の場合	小型特殊免許/普通免許
上記の寸法・運行速度の制限をひとつでも上回る場合	大型特殊免許(「農耕用に限る」を含む)

作業機を装着した状態で
全幅は1.7mを超えているため
大型特殊免許が必要



3 灯火装置及び反射器の取付位置について

- ① トラクタや作業機に元々備わっている灯火装置が、他の交通からの被視認性を確保できていれば、灯火装置を移設又は増設しなくても道路を走行できます（前方に作業機を装着する場合も同じ）。

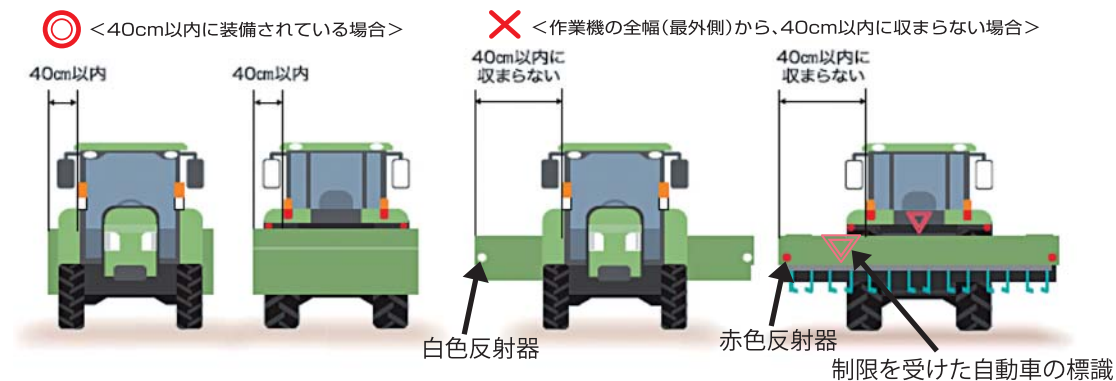


灯火装置、反射器の位置はトラクタのメーカー、シリーズ、型式により異なります。

※全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高2.0m以下（安全キャブや安全フレームの高さ2.8m以下）、且つ最高速度15km/h以下のトラクタの場合、車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯は取付け義務がないので、トラクタに装備されていない場合は確認の必要はありません。

- ② ①の場合でも、トラクタや作業機に元々備わっている灯火装置が、それぞれ最外側から40cm以内とならない場合は、以下の制限事項に対応する必要があります。

- ・作業機の前面の両側の可能な限り最外側に、白色反射機を備えること
- ・作業機の後面の両側の可能な限り最外側に、赤色反射機を備えること
- ・制限を受けた自動車の標識(▽)を後面に装着すること



- ③ 作業機の装着により、灯火装置等が視認不能となる場合は、他の交通からの被視認性を確保するため、保安基準に準じた位置に灯火装置等を新たに装着する必要があります。



<小型特殊自動車の場合>

- ④! 記載している制限事項はあくまで一部です。記載以外にも詳細な決まりごとがあります。詳しくはお近くのJA農機センターへご相談又は一般社団法人 日本農業機械工業会ホームページでも道路走行に関する情報が確認できます。必要な対応を行うと共に、周囲の安全を第一に注意して走行してください。

出典:一般社団法人 日本農業機械工業会「作業機付きトラクタの公道走行ガイドブック」(農機販売店向け)

〈お問合せ先〉農業機械課／くにひろ 国弘:TEL.0824-62-3103

リサイクル
RECYCLING
リソース
RESOURCE
リピート
REPEAT

〈3-R〉の商品は、「とれたて元気市広島店」(広島市安佐南区大町東)や「JA全農の通販サイト「JAタウン」(<https://www.jatown.com/shop/c/c6301/>)で
お問い合わせいただけます。

広島県の美しい田園や里山の風景、そこで育まれる農畜産物と人々の暮らし。これらは地域にとってかけがえのない魅力であり、未来に残していきたい私たちの財産です。未来へ向けて、これらを守っていくために、〈環境保全型農業〉に取り組むことが必要と考えています。農畜産物をいただくことがその地域の環境保全と文化の継承につながり、そこに生きる人たちの誇りとなるよう〈3-R〉を推進してまいります。

〈3-R〉とは、畜産で生まれた堆肥を、農作物や飼料用作物を栽培するための〈肥料〉として「再利用(リサイクル:Recycling)」する、「資源(リソース:Resource)循環型農業」から生産された農畜産物の証となるブランドマークです。この〈3-R〉活動を「繰り返す(リピート:Repeat)」ことで、地域の環境保全につながります。

全農 JA全農ひろしま 〒731-0124 広島市安佐南区大町東2丁目14-12 TEL.082-846-4701